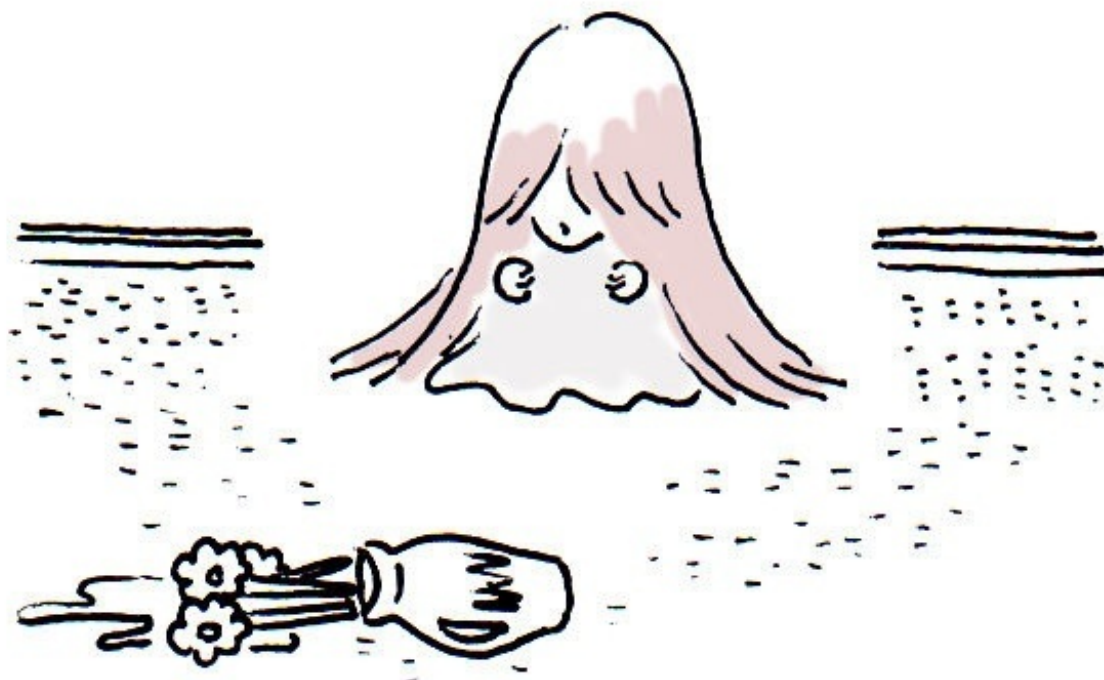
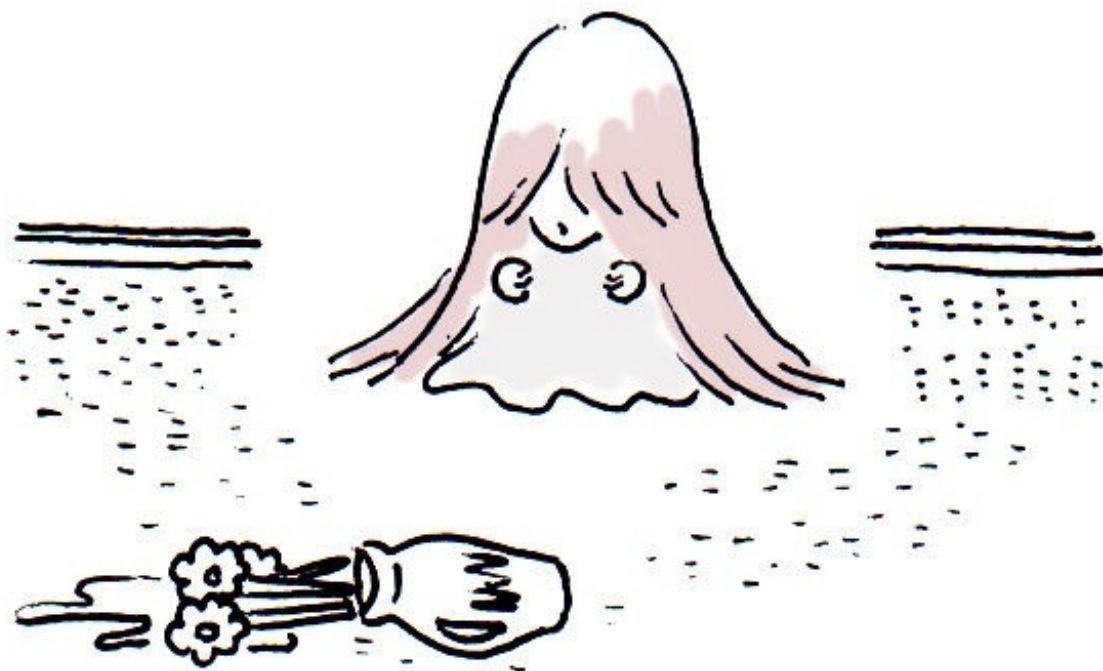


メリッサ

さく ゆうほう





ひろい おうちに メリッサは すんでた。
「あっ。 かびんが たおれた。」



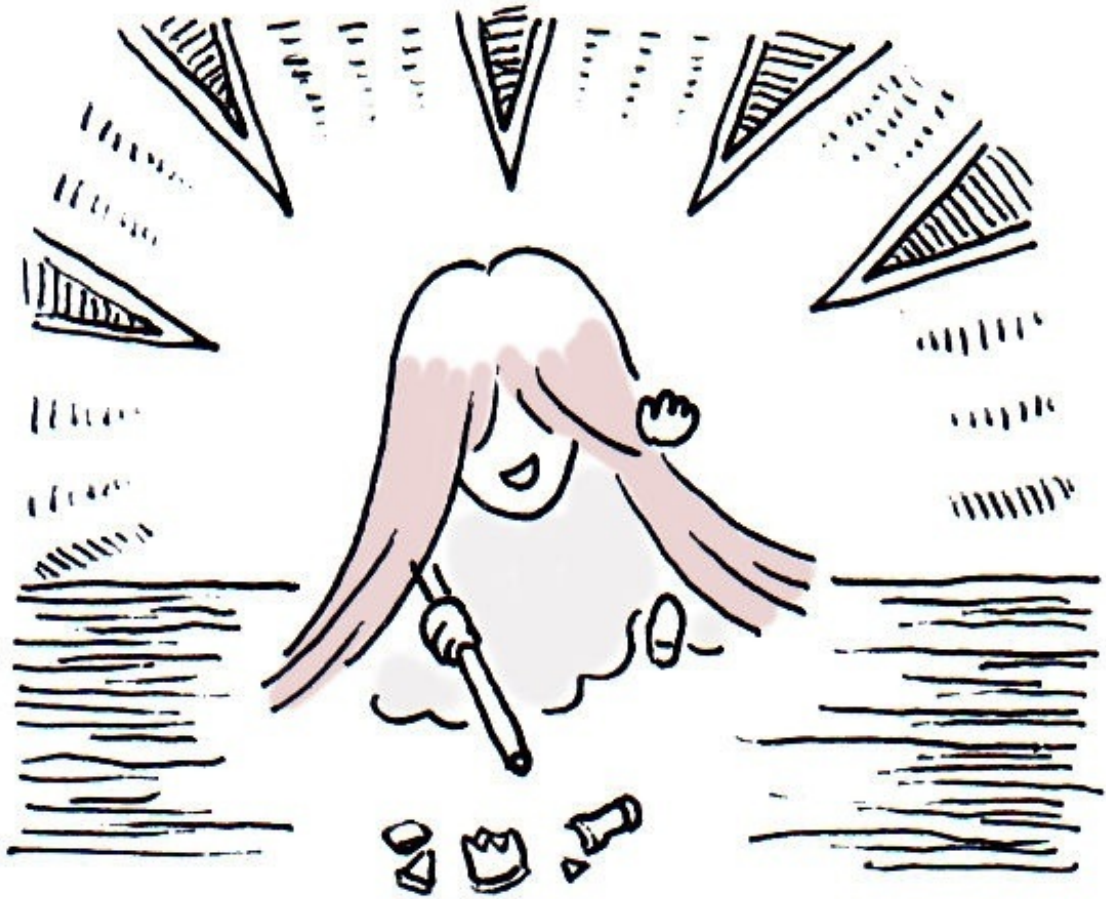
さっそく ぞうきんを もってきた メリッサ。
ところが かびんの まえまで くと ピタリ。
「なんだか とても めんどくさい。」



「ごはんを たべよう。」
メリッサが だした ごはんは てんこもり。
おなべの ふたに いろんな ごはんが のっている。
「なんだか たべきれない。」



こんどは ぼうをもって どこかへ いきます。
なにを するかは まだ ひみつ。



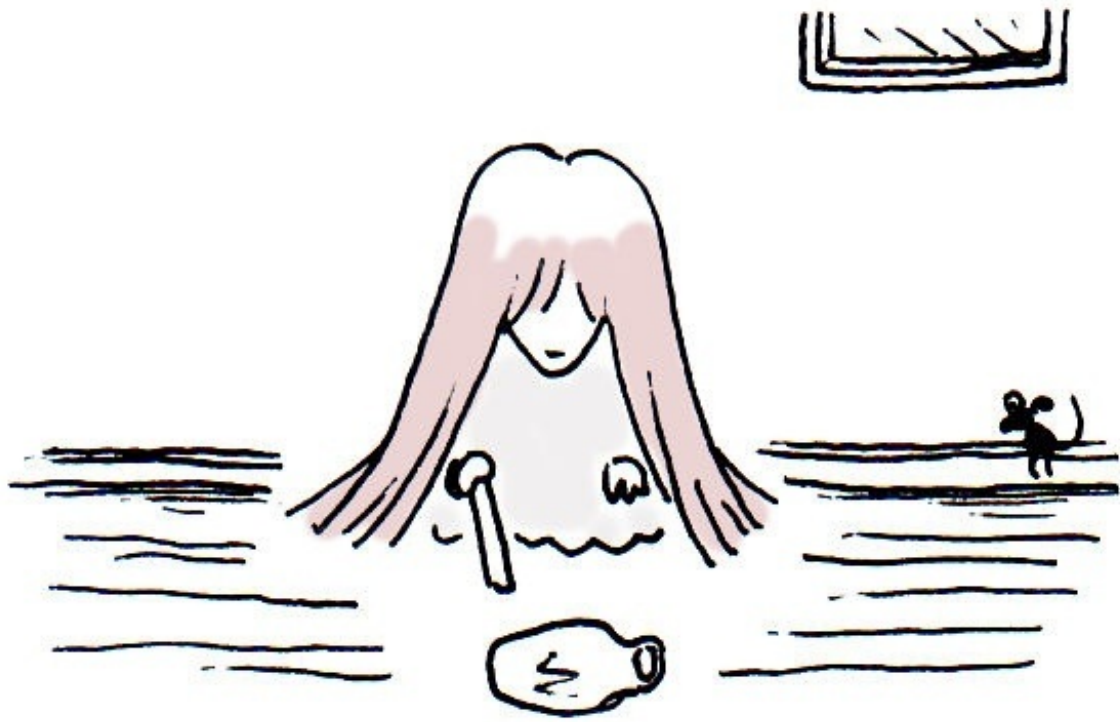
メリッサは ガチャガチャバリーンと ビンをわった。
「がちゃーん。 がちゃーん。 あーたのしい。」



こんどは さっきのかびんを わるつもり？



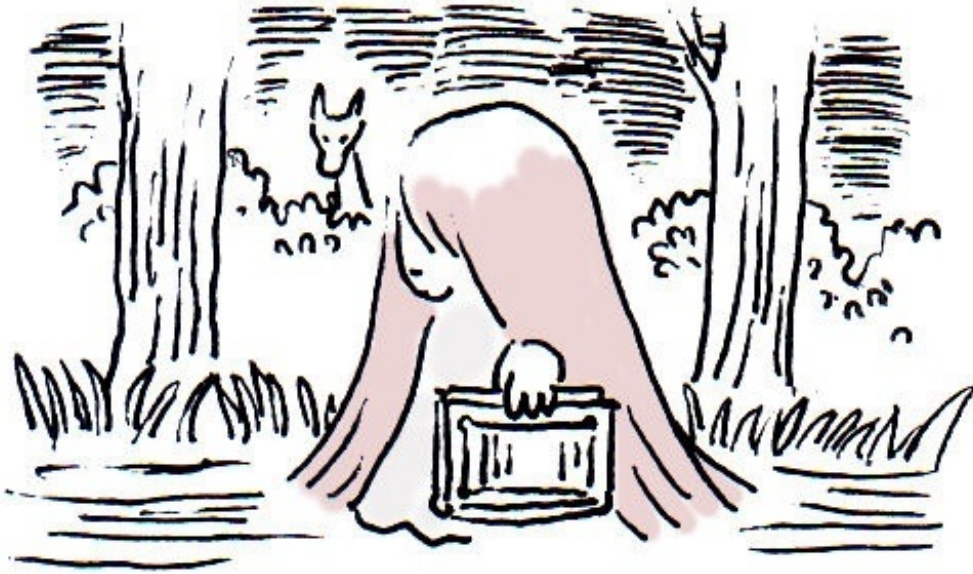
それは かあさまの かびんよ？



だって いまは かあさまが いない。



とうさまも いない。
もう ひとりでいるのは まっぴらよ。



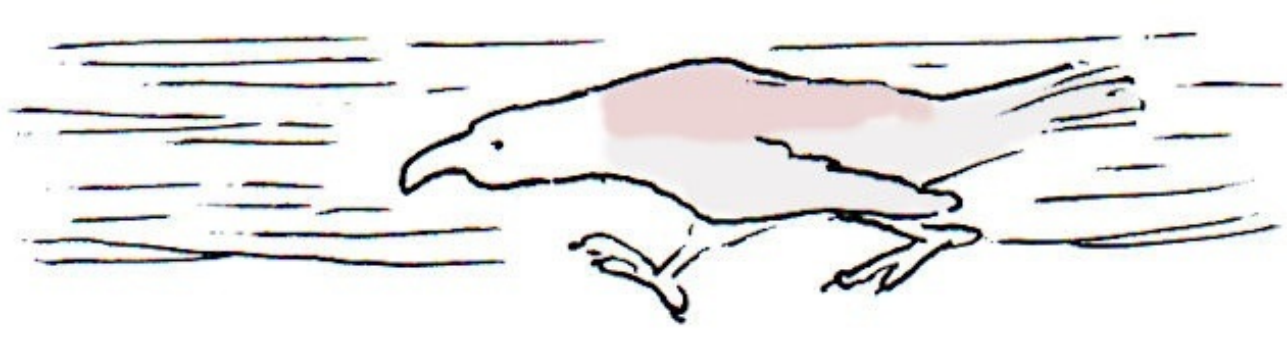
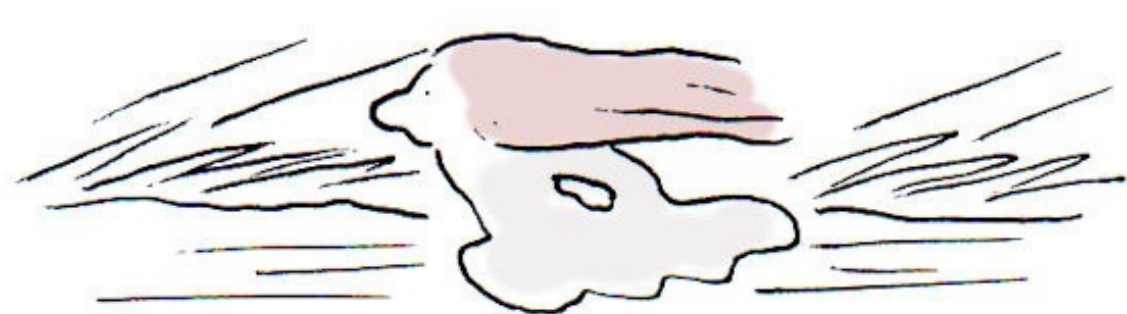
わたし きめたの。



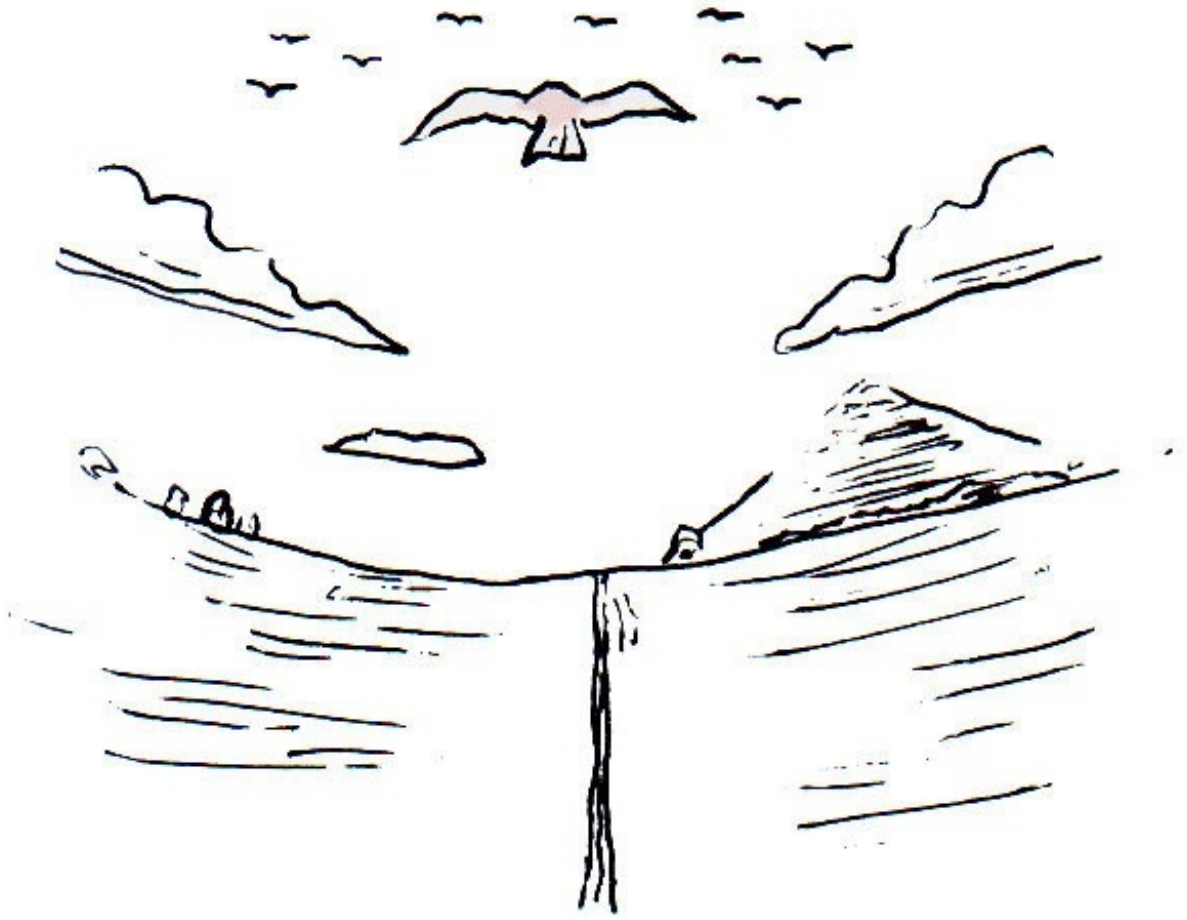
ほら ここ。



みてて。







こんなに ひろいんだもの。